

対人援助職向け危機介入研修の実施報告

開催概要

日時:2019年2月25日(月) 13:00~17:00(4時間)

場所:日本財団ビル大会議室

対象:東京都内の援助機関に従事する対人援助職

講師:伊藤次郎(NPO法人OVA代表)

清水幸恵(NPO法人OVAシニアコンサルタント)

参加人数:39名

スケジュールと内容:

時間	内容
80分	<p>【講義1】「臨床に生かすための自殺の統計と現状」「自殺のリスクアセスメント」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺に関する統計的データ(疫学的事実) ・年間自殺者数／自殺率／自殺致死率と性別／自殺未遂率の性差／ ・自殺と年齢・職業・曜日・配偶者・遺書の有無／国際比較等 ・自殺の危険因子と偽陽性について ・自殺の対人関係理論・自殺の危険性を本人から聞き出すポイント
80分	<p>【講義2】「事例を通じたケースの理解」</p> <p>「死にたい」と訴える若者の理解とアセスメント</p>
60分	<p>【講義3】「自殺の危機にある人にどうかかわるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺に追いつめられる心理(心理的視野狭窄／アンビバレント等) ・支援者の心理と自殺に関する信念／支援者の逆転移 ・介入方法(ポイント) ・チームによる支援／バーンアウトの予防 ・質疑応答

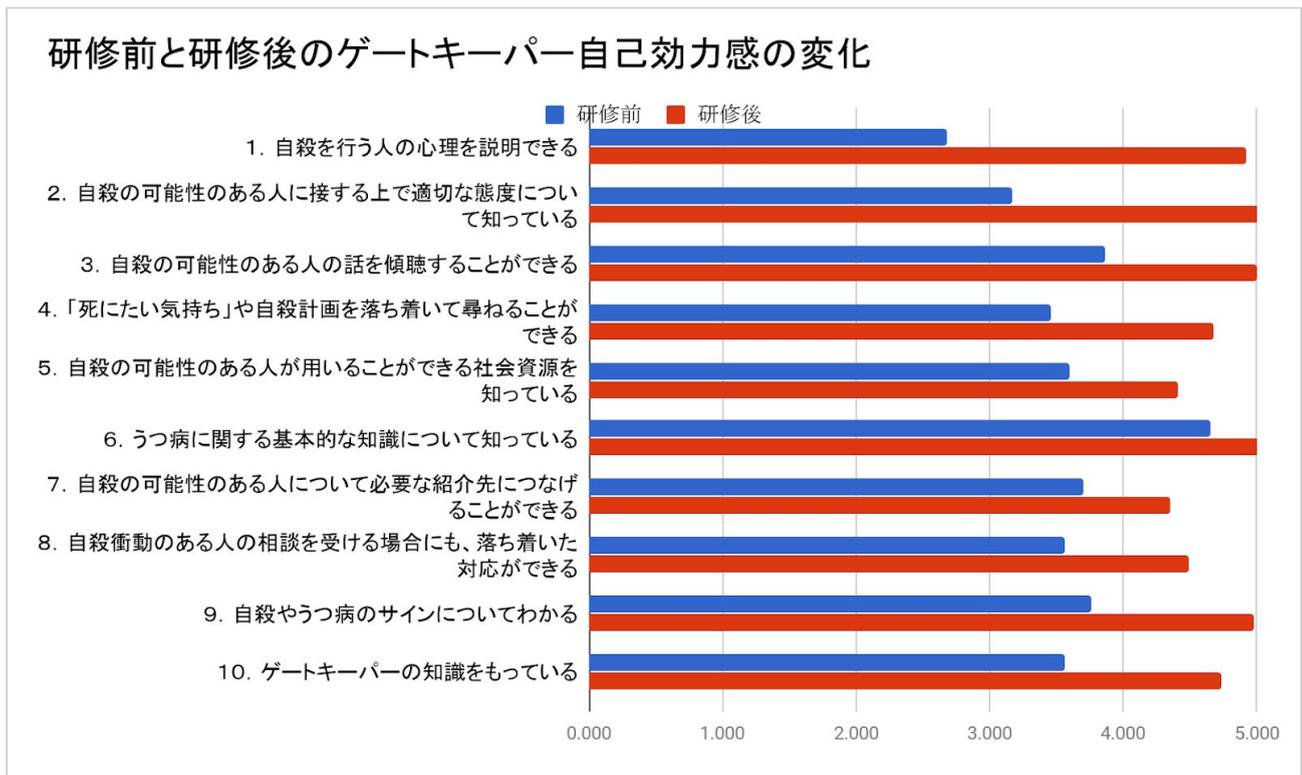
研修の効果

当日は事前と事後に自殺予防への取り組みに対する自信のアンケートを実施し、研修の効果測定を行った。アンケート指標にはゲートキーパーとしての※自己効力感尺度を用いた。

※自殺予防におけるゲートキーパー自己効力感尺度(Gatekeeper self-efficacy scale, GKSES)の開発Development of a suicide prevention gatekeeper self-efficacy scale (GKSES)(森田、太刀川ら、2015)

回収した回答から、以下のような結果が見られた。

- 自己効力感全体は、研修後32.9%上昇した。(合計点の平均が35.9から47.7に上昇した)
- ①自殺を行う人の心理を説明できる、②自殺の可能性のある人に接する上で適切な態度について知っているの2点についての自己効力感が特に大きく上昇した。



アンケート結果

研修に関する自由記述では、以下のような内容が見られた。

- 事例検討を交えたアセスメントと対応の説明がわかりやすかった。
- 初めて聞く概念が多く、参考になった。
- 学んだ内容を踏まえて、経験を積む必要があると感じた。

以上